

しずくしい 議会だより

No.92

2015. 1

編集 議会広報編集特別委員会

●今号の主な内容

議長あいさつ…2

12月定例会のあらまし…2

12月定例会議決結果等一覧…4

町政を問う

一般質問 9議員が質問…5

あの質問どうなった…15

議会改革のまとめ／議員クローズアップ…16

常任委員会活動報告 ……17

皆さんからのご意見／ふるさとへの便り(58) …18～19

●今号の表紙／まちの笑顔シリーズ
「栗石町剣道スポーツ少年団」

12月定例会のあらまし



新年のごあいさつ

雫石町議会議長 石亀 貢

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様方におかれましては、ご健勝にて、新春を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。また、日ごろから本町議会に対しご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、国内においては、消費税 8% や各地での記録的集中豪雨、御嶽山噴火や年末の衆議院選挙など歴史に残る出来事が挙げられます。

一方、本町においては、秋に町長選挙が行われ、11 月から深谷政光町長の 2 期目がスタートいたしました。

また、私ごとではありますが、昨年 9 月定例議会におきまして、猿子恵久議長の後を受け、議長に推挙していただきました。今後とも皆様のご叱

正をよろしくお願いいたします。

一昨年、本町では記録的な豪雨災害に見舞われたものの関係各位のご努力により、今年度末約 8 割の復旧工事完成にめどが立ちました。早期の復旧ができたことは大変良かったと思います。活力のある町を目指すことは、災害にも強い町でなくてはなりません。議会といたしましても、最善の努力をいたしてまいります。

そして、私たち議員は、本年 7 月今任期の満了を迎えます。集大成の年でありますので、気持ちを引き締めて議会活動に取り組む所存であります。

結びに、今年も天候に恵まれ、平穏な年でありますよう祈念するとともに、町民皆様の今後ますますのご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

4条例案を可決 下水道事業に公営企業法適用

平成 26 年 12 月定例会は、12 月 5 日から 12 月 12 日まで 8 日間の会期で行われました。

本定例会では、条例制定等案件が 4 件、補正予算案件が 9 件、工事の請負契約変更案件が 2 件あり、これらの計 15 件の案件は全て原案通り可決しました。

このほかに、請願 2 件と陳情 1 件があり、この 3 件を採択し、これを議員発議によりそれぞれの意見書を国及び県に提出しました。一般質問は、9 名が登壇し、深谷町長 2 期目の町政運営など多岐にわたりいただきました。

条例の制定・一部改正

○雫石町地域包括支援センターの包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例の制定について

介護保険法の改正により、従来、厚生労働省令で定められていた地域包括支援センターの設置者が遵守しなければならない包括的支援事業を実施するために必要な基

準（職員に係る基準及び職員数等）を定める必要が生じたため、町条例で定めるもの。

○雫石町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の制定について

介護保険法の改正により、従来、厚生労働省令で定め

られていた指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準（従事者に係る基準等）を定める必要が生じたため、町条例で定めるもの。

○雫石町国民健康保険条例の一部改正について

健康保険法施行令の改正を踏まえ、出産育児金の支給額についての所要の改正等をするもの。

○雫石町水道事業の設置等に関する条例の一部改正について

公共下水道事業及び農業集落排水事業に地方公営企業法の全部を適用することに伴う規定の整備その他の所要の改正をするもの。

補正予算（主なもの）

○平成 26 年度一般会計補正予算（第 6 号）

補正前の額	補正額	計
92 億 1,330 万 7 千円	1 億 4,857 万 2 千円	93 億 6,187 万 9 千円

▶町有地活用事業化支援業務委託料	193 万 4 千円
▶国民健康保険特別会計繰出金	8,702 万 0 千円
▶鶯宿温泉予備源泉ポンプ整備費補助金	121 万 0 千円
▶道路除排雪業務委託料	▲ 1,196 万 7 千円
▶除雪事業用消耗品費・燃料費等	1,196 万 7 千円

○主な質疑

問 平成 26 年度総合計画推進モデルプロジェクト共同研究委託料として当初予算に 194 万 4 千円を計上して、町有地活用懇談会を 3 回開催し、終了しているが、この報告書は公表しないのか。町有地活用事業化支援業務委託料では、何をやるのか。

答 当初予算で行った共同研究の結果は、基本計画案にまとめたものを議会に説明することになっている。今後は、民間主導の地域づくり拠点をつくる観点から、事業参画へのヒアリング等や検討会を 5 回ぐらい行う予定である。

問 今年度から国保税を値上げしたにもかかわらず、国保特別会計への財源補填拠出金 8,702 万円計上しているのはどういうことか。また、来年度以降の取組方針は、どのように考えているのか。

答 26 年度に入り、高額な医療費がかかる患者が多くなったことから、予算不足になるため計上した。国保加入者が減少している一方で、医療費はなかなか減らないし、1 人当たりの医療費も膨れている。来年度も国保税を上げるのは難しいと考えており、一般会計からの拠出金に頼らざるを得ないと考えている。引き続き医療費の削減に努めていく。

問 道路除排雪業務委託料を 1,196 万 7 千円減額し、除雪事業用消耗品費・燃料費等へ組替えているが、これはどういうことか。

答 9 月補正で除雪事業の一部を直営にするということで、臨時除雪作業員賃金、ダンプに係る消耗品費、燃料費、修繕料を計上したが、今回は、ローダー、グレーダー等に係る消耗品費、燃料費、修繕料と重機等借上料を計上した。借上料以外の消耗品費等は町が NPO に貸し出している車両の分である。

こうなりました 請願・陳情 皆さんからの

○請願第 8 号 危険な通学路に歩道新設の請願書

提出者＝谷地行政区長 櫻田 宣場
谷地公民館長 遠藤 正道

県道 212 号線谷地交差点から上町交差点までは、通学路であるが、現在は歩道がなく、一部区間はカーブしており、道幅も狭い。見通しも悪い状況にあり、交通量も多く、坂道の凍結により、非常に危険な箇所があることから採択としました。

なお、これに関する意見書（児童生徒の安全確保のため、県道 212 号線谷地交差点から上町交差点までの通学路における危険個所に、歩道の新設を速やかに行い、安全対策を実施すること。）を議員発議（発議第 1 号）し、岩手県に提出しました。



危険な通学路の現地調査を実施

○請願第9号 米価安定対策等に関する請願

提出者＝新岩手農業協同組合

代表理事組合長 久保 憲雄

米価の下落による稲作農家の収入減は深刻であり、ナラシ対策では不足であることや直接支払交付金の予算を確保し継続的に支援する必要があることなどから採択としました。

また、これに関する意見書（①地域の担い手の育成確保に全力で支援すること。②国を挙げて主食用米の消費拡大や輸出促進対策に取り組むこと。③ナラシ対策の補填割合の拡大や加入促進の柔軟対応を行うこと。④担い手所得を構築すること。⑤飼料米の生産拡大に向け、水田活用の直接支払交付金の予算を確保し継続的に支援すること。）を議員発議（発議第2号）し、国会及び関係省庁に提出しました。

○陳情第6号 ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充に関する陳情

提出者＝宮城県肝臓病交友会代表 大江 正義

B型肝炎被害対策東北弁護士団 鹿又 喜治

薬害肝炎訴訟東北弁護士団 増田 洋

本人に責任がなく、予防接種等によって肝炎ウイルスに罹患し、重篤な症状が発症している肝硬変、肝がん患者に対し、現在医療費助成制度がなく、身体障害者手帳の認定も非常に認められにくいという現状を改善する必要があるということから採択としました。

また、これに関する意見書（①ウイルス性肝硬変・肝がんに係る医療費助成制度を創設すること。②身体障害者福祉法上の肝機能障害による身体障害者手帳の認定基準を緩和し、患者の実態に応じた認定制度にすること。）を議員発議（発議第3号）し、国会及び関係省庁に提出しました。

平成26年第9回雫石町議会 12月定例会 議決結果等一覧 会期：12月5日(金)～12月12日(金)

議案等 番号	議員名 横手 寿明 山崎 芳邦 田屋 留愛子 幅 秀哉 岩持 清美 山崎 留美子 加藤 真純 杉澤 敏明 川口 一男 前田 隆雄 西田 征洋 谷地 善和 田中 栄一 大村 昭東 上野 三四二 坂下 栄一 坊屋 鋪俊一 平子 忠雄 村田 厚生	採決結果
議案第1号	雫石町地域包括支援センターの包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例の制定について	可決
議案第2号	雫石町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の制定について	可決
議案第3号	雫石町国民健康保険条例の一部改正について	可決
議案第4号	雫石町水道事業の設置等に関する条例の一部改正について	可決
議案第5号	平成26年度雫石町一般会計補正予算(第6号)	可決
議案第6号	平成26年度雫石町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	可決
議案第7号	平成26年度雫石町下水道事業特別会計補正予算(第1号)	可決
議案第8号	平成26年度雫石町農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	可決
議案第9号	平成26年度雫石町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)	可決
議案第10号	平成26年度雫石町介護保険事業勘定特別会計補正予算(第3号)	可決
議案第11号	平成26年度雫石町立雫石診療所特別会計補正予算(第2号)	可決
議案第12号	平成26年度雫石町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	可決
議案第13号	平成26年度雫石町水道事業会計補正予算(第1号)	可決
議案第14号	道路災害復旧(25災498号・499号)工事の請負契約の変更に關し議決を求めることについて	可決
議案第15号	林道施設災害復旧事業 北天川沢線1号箇所復旧工事外4工事の請負契約の変更に關し議決を求めることについて	可決
発議第1号	危険な通学路に歩道を新設する意見書の提出について	可決
発議第2号	米価安定対策等に関する意見書の提出について	可決
発議第3号	ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書の提出について	可決

○…賛成、●…反対 欠…欠席 ※石亀議長は採決には加わりません。

12月定例会

一般質問 町政を問う 9議員が質問

一般質問は、議員が広く町政に関し報告や説明を求めたり、疑問をただしたりするものです。定例会ごとに実施されており、質問順は抽選で決定しています。

質問者	質問内容	掲載頁
 はば ひで や 幅 秀哉議員	人口減少と定住対策への 施策と評価は	6
 うわ の み よ じ 上野三四二議員	深谷町政の優先施策は	7
 すぎさわ と し あ き 杉澤敏明議員	次期介護保険料の見込みは	8
 いわもち よ み 岩持清美議員	JA 米の仮渡金 4,150 円 どう思う	9
 かわぐち か ず お 川口一男議員	(株)しずくいしを どのように改善するのか	10
 やまざき る み こ 山崎留美子議員	県内最下位の図書購入費、 改善を	11
 やまざき よ し く に 山崎芳邦議員	町内三スキー場への 大会の誘致は	12
 おおむら し ょ う と う 大村昭 東議員	公約の実行実現は	13
 にし だ ま さ ひ ろ 西田征洋議員	米価暴落、町として 価格上乗せを	14

人口減少と定住対策への施策と評価は

町長／全庁を挙げた体制で対策を進める



トラクターも立派な除雪機なんだけども、使わない手はないと思うけど…

問 人口減少対策と定住対策のこれまでの主な施策と実施年月は。また、その事業評価はどのようになされたか。

町長 定住対策として平成 22 年度から定住促進住宅の運営管理を進め、町外から 14 世帯 39 人が入居、平成 24 年度から空家バンク制度へ取り組んだ。現在空き家登録 2 件、利用登録 6 件、契約成立 2 件。雇用対策は平成 22 年度より新規高卒者雇用奨励金補助として 39 人に交付した。人口減少対策としての少子化対策で平成 22 年度から中学生までの医療費無料化助成を始め、毎年度 1,000 人を超える補助を実施、平成 23 年度から病後児等保育事業に取り組み、利用者は平成 26 年度 10 月現在 539 人である。各施策評価はホームページに掲載している。

除排雪事業における 除雪業務収支報告書の考え方は

問 議会提出資料の除雪業務収支報告書は訂正や不明朗な記載があるが、その考え方と説明を求める。また、今後の除雪対策・体制をどう考えているか。

町長 除雪業務収支報告書は平成 24 年度以前のは受注者に提出を求めたものである。平成 25 年度以降は NPO を含む事業委託の適正化に関するガイドラインを参考に業務委託契約書の中に入れたものである。その中の、減価償却費の扱いは、受注者が報告書の作成に当たり、税理士事務所に相談し計上した。担当課も税理士事務所に直接確認をし、減価償却費は除雪に関する費用であるから計上すべきとの見解であった。対象の小型ローダーは受注者が平成 24 年度に購入し、それ以降費用計上している。今後は今年度から除雪ダンプの運転手を直接雇用し、一部を直営で行う。特殊車両運転手は見送りとした。



有効活用が望まれる定住促進住宅

■他にこんな質問もしました
・女性の人口対策チームの検討は

深谷町政の優先施策は

町長／人口減少に歯止めと 新構想を優先



「あれも・これも」
ではなく、
「あれか・これか」
実践あるのみ、
ダッシュ!

問 町長は2期目に当たり新構想として、みんなが主役のスローガンのもと、4地区・地域別計画、人口減少プロジェクト、官学民連携プロジェクト、強い農林業等々を町民に公約した。国策に呼応するだけやパフォーマンスだけでは町民の期待に反する。深谷カラーを活かし公約の責任を早期実現するとともに、町独自性の政策が必要である。優先施策と推進年次、執務体制を聞きたい。

町長 町づくりを進めていく上で、最も大きな課題は人口減少であると考えている。人口減少は、環境や教育、産業振興、医療、福祉、防災や地域づくりなどあらゆる分野で影響する。そのため、平成27年度は第二次基本計画の策定において検証するとともに、3つの新構想をすすめ人口減少に歯止めをかける。地域創生に向けた対応も3つの新構想の中で検討したい。組織体制は施策、予算、体制の一体化で見直す。緊急的な視点、将来的、長期的視点と共に、新構想を中心に諸施策を総合的に講じたい。

後期高齢者特定健診の助成無しは 高齢者差別だ

問 健康活動の一環として、JA岩手厚生連が実施している人間ドック健診は多くの町民が受診している。健康データを共有するため特定健診科目相当額を実質助成しているが、同ドックを受診した75歳以上高齢受診者については、県後期高齢者医療広域連合に移行したことで助成協議もされず、健康データも共有されていない。これは高齢者差別であり町民の健康推進上も問題があり、関係機関・団体との協議欠如ではないか、直ちに検証し改善すべきである。

町長 後期高齢者が人間ドックを受診した際の特定健診は義務化されていないので、一人9,888円は予算計上していないし契約もしていない。町で行っている健診でも対応ができるが、特定健診ではなく、人間ドック受診者の別な事業助成で考えていかなければと思っている。



検診には欠かせないX線撮影装置

次期介護保険料の見込みは

町長／相当の増額は避けられない



深谷町政は2期目に
入ったが、27年度に
計画策定し、28年度
から事業化するもの
が多い。1期目の経
験を生かし、速やか
に事業展開をしても
らいたい。

問 平成 27 年度から 29 年度までの第 6 期介護保険事業計画における第 1 号被保険者の月額保険料は、おおよそ幾らぐらいになる見込みか。

町長 介護給付費が年々増加する見通しであり、現在の介護保険料から相当の増額は避けられない状況である

問 第5期介護保険料は、介護給付費準備基金繰入金等で305円を軽減した結果、1,402円の増額をし4,740円であった。相当の増額ということについて、もう少し具体的に伺いたい。

福祉課長 第5期介護保険料設定時並みの
上昇は避けられないと考えている。

■他にこんな質問もしました

- ・人口減少対策をいつからどのように進めようとしているのか

町独自の米価下落の対応を検討

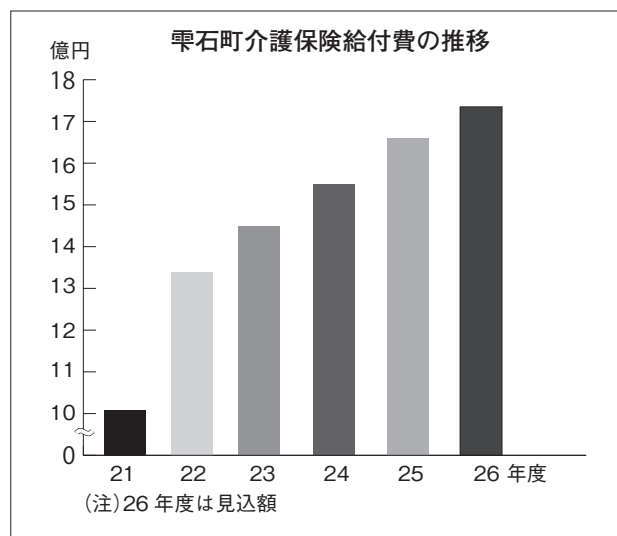
問 平成 22 年産の米価が下落した時には、町独自に翌年度再生産のため、10 a 当たり 2,000 円の助成を行ったが、今回はその時以上の助成が必要だと思うがどうか。

町長 来年度の作付等に対しては、そういうことは検討しなければならないと思っている。

地域別計画に盛り込む内容は

問 雫石・御所・西山・御明神の地域別計画を作るとしているが、この計画にはどのような内容を盛り込もうとしているのか。また、地域自治の確立が狙いとしているが、このような自治組織や運営をどう考えているのか。

町長 平成 27 年度には、防災や交通安全、環境保全や景観づくり、高齢者の見守りや子育てなどについて、地区単位で検討し、将来像や目標を定め、地域住民の皆様が自発的に取り組んでいく内容を取りまとめたい。地域づくり会議の組織や運営方法等については、現在予算編成作業において検討を進めている。



問 26年度産米 あきたこまち1等30キログラム4,150円のJA仮渡金だが、収入減少緩和対策（ナラシ対策）の発動見通しは。

町長 認定農業者及び集落営農組織等で、一定要件を満たした165件、水稻作付面積42%に対しては、発動される可能性が高いと考える。また、加入していない約920人に対してはナラシ移行円滑化対策として、ナラシ交付額の37.5%は補填されると考える。

問 平成22年度産米下落の時は、資金借入に対する利子補給と種籾購入の助成をしたが今回はどうか。

農林課長 利子補給は行うが、27年度産の米作付対策として種籾への助成はもっとも有力な対策と考えている。新年度予算で対応できるようにしたい。

問 3年後、5年後の雫石農業の方向性は。

町長 農業者の高齢化が進み、担い手不足が危惧される。雫石町の農林業基本計画が27年度で終了することから基本計画の策定を進める中で、農村地域として持続可能な強い農業を目指していく。

町有地 14 ヘクタールの活用方法は

問 町長は10月の記者懇談会で、14ヘクタールの町有地活用は方向性がほぼ決まったと述べているが、その方向性は。

町長 事業の方向性として、第1段階では「子供の環境学習の場の提供」「高齢者や障がい者の活動の場の提供」。第2段階では「予防介護などの取り組み強化」「定住促進の住まい」。第3段階では「6次産業化や農業者の人材育成」「地域エコシステムの構築」に取り組む。また、27年度で基本設計と資金計画の作成を終え、28年度に工事着工を目指す。

J A 米の仮渡金
4、150円どう思う
町長／生産意欲、資金繰りが
懸念される



TPP・低価格などにより農業リタイア、耕作放棄地が増加する。何とか対策しなければ。



JA 倉庫に保管されている 26 年産米

■他にこんな質問もしました

- ・2018 年からの減反廃止の中身は決まったのか
- ・2018 年目標の農政改革の対策は考えているか

(株)しずくいしをどのように改善するのか

町長／産直を含む物産販売の充実が重要



事業は山のごとし
谷もあれば山も有り
下りもあれば
登りも有り

問 深谷町政になってから(株)しずくいしの経営が悪化しているのはなぜか。

町長 平成13年7月に道の駅が開業して以来、その運営にあたっている(株)しずくいしの経営状況は極めて憂慮すべき状況にある。開業当初からの戦術、発想や目標設定の曖昧^{あいまい}などが問題点としてあげられている。事業概念等を再度見直し、道の駅を核とした5年先、10年先を見据えた経営展開が必要と考える。

問 6月補正で改修のための予算を付けたのに、入札が終わったばかりと聞くが、なぜ早くやらないのか。

観光商工課長 工事の進め方については経営連絡会議で協議し、道の駅の入込客数が少ない閑散期の11月から2月の工事が、営業に支障が少ないと判断し工事施工を計画している。

問 レストラン、温泉が主になってはいないか。産直の生産者の事を考えて、休まないで工事ができないのか。

副町長 物産全体の部分について改修するため、レジの位置も移動し、棚の入れ替えもあるため休業が必要であった。産直の方々とも展示のやり方について話をし、リピーターを増やしていきたい。

問 町が9割の筆頭株主なのだから、指導、チェック、改善計画をきちんと行い報告してほしい。新しい役員が入ったと聞くが。

副町長 6月定例会中に自治法に基づく報告はさせていただいた。役員については、株主総会の席上、株主から取締役の推薦があり選任された。関東方面の方で非常勤の取締役である。

町長 変則的な90%出資会社、こういう体制でいいのかも検討の余地があるのではないと思う。第三セクターにおける失敗の原因の一つである依存体質をなくし、経営会議を開き改善努力をしている。産直組合の方々も意識が変わってきている。職員の営業姿勢等指導して頑張っていきたい。



改修する物産販売エリア

■他にこんな質問もしました

・故障前の温泉ポンプは、水道用ではなかったか

県内最下位の図書購入費、改善を

教育委員長／更新に努力し、住民ニーズの図書館に



「大雪で除雪機こわれ泣き入る」このまま降ると、八甲田に匹敵？

問 町民一人当たりには占める町の図書購入費がわずか115円で雑誌も買えない額だ。図書館利用の基礎を形づくるには図書館サービスは重視されなければならない。今後の考えは。

教育委員長 県の努力目標400円と比較しても約4分の1で、利用者からも新しい本の購入要望をいただいている。図書館は子どもたちの学力向上と密接な関係があると指摘されており、図書資料の更新に努力したい。

問 利用者のニーズは様変わりしている。パソコンを利用する設備もなく、子どもたちに読み聞かせる場所も見当たらない。設備更新する考えは。

教育委員長 紫波町の図書館を皮切りに、滝沢市や矢巾町でも建設計画があるが、昭和60年開館でまだ耐用年数がある。しかし、施設を有効活用しつつ住民ニーズに合った図書館にリニューアルする必要があると考えている。

問 読書と学力の関係は、子どもたちの心の成長に大きく影響し学力においても大きく差が出ることが明かだが、町内の小学校ではどうか。

学校教育課長 町立図書館を利用している御明神小と安庭小では、全て県の学力定着度の平均点を上回っている。

デマンドバス運行形態の課題は

問 ありね山荘には、西山線利用の方は途中で乗り換えして往復800円かかる。また、矢櫃や九十九沢の方の運行がなくなり不便だとの声もある。利用料金と運行路線を見直す考えは。

町民課長 部分協議は行った経緯はある。乗り換え料金や矢櫃地区方面の方の利用についても、利便性を向上させる形でよい方法を検討しながら進めていけたらと考えている。



リニューアルが望まれる町立図書館／読書コーナー

■他にこんな質問もしました
・長引く低周波問題の解決を急げ

町内三スキー場への大会の誘致は

町長／関係団体と連携し誘致活動に努めていく



町民や観光客に
対して、心に安らぎ
や潤いを与える景
観づくりにして！

問 国体、高校総体等の全国大会が八幡平方面で開催されている。町内でもケッパレランド等々の施設も充実して来ていると思うが招致する考えはあるか。

町長 平成 28 年開催のいわて国体アルペン競技も県スキー連盟に要望したが、八幡平市に決定した。現在平成 29 年～30 年の大会誘致を要望している。また、町営クロスカントリースキー場の 5 キロ公認コースに加え、新たに 1.2 キロのコース整備を実施したいと考えている。

投票率低下の要因と今後の対策は

問 先の町長選、町議補選の投票率低下の要因と今後の対策について、具体的な方策を講じているか。また、年代別の投票率を分析しているか。

町長 地方選挙に限らず、国政選挙においても投票率の低下が叫ばれている。特に若い有

権者の投票率の低下は、政治への関心や投票の義務感が低いと考えられることから、町では毎年成人式において、貴重な一票を無駄にすることなく自らの判断で積極的に投票するよう啓発活動を行っている。選挙は民主主義の基盤をなすもの。住民の意識の醸成、向上を図るため、町広報やホームページ等を通じて啓発していく。

年代別の投票率については、今後データの電算化について検討し、把握と分析をしていく必要があると考えている。

環境、景観の保全保持を

問 アルペンフラワーロードは大変美しいが、周辺の雑草等が景観として美しくない。環境、景観の保全保持を国等関係機関に要請しているか。

町長 国道 46 号雫石バイパス沿線の雑草は、道路管理者の国土交通省が防草シートを設置しているほか除草作業を実施している。町でも植栽後の管理を NPO 団体に委託し周辺の草刈りも実施しているが、国に対し、これまで以上のフラワーロード事業への協力と除草等周辺の環境整備について要請し景観づくりに努めていく。



整備が進むケッパレランド

公約の実行実現は

町長／継続すること、
できると感じている

言っていることと
実際にやることと
違っていることが
「主役のまち
づくり」はできま
せん。



問 町民所得10%アップ、新規雇用創出200人など、1期目公約の70項目以上の約束事項がほとんど実行実現されていない。2期目深谷町政においても、言っていることと実際にやることの違いを強く深く懸念しているがどうか。

町長 この4年間でできないことも、継続することで、できると感じている。

米価下落対策は

問 米価下落は深谷農政の言葉だけで終わる「約束違反農政」なども重なり、重苦しい停滞感の中にあり、独自の農業振興策を実行しなければならないが、新機軸の政策を尋ねる。

町長 様々な施策を推進し、関係機関団体、地域一体となって強い農林業を作り上げる。

商業のまちづくりは

問 魅力的な商業のまちづくりとは、どういう内容か。1期目では、人触りのいい町になるという言葉だけで終わった。確実に実行実現する手段方法は。

町長 住民の方々と力を合わせ事業を前に進める。併せて新商品の開発や物産PR、販売促進強化の支援をする。

地域別計画実現に向けての取り組みは

問 住民の皆様が将来に夢と希望を持てる町づくりを進める4地区の地域別計画実現の仕組み、手段、方法を尋ねる。

町長 地区単位で検討し、住民が自発的に取り組んでいく内容とする。

他にこんな質問もしました

- ・地域通貨発行について
- ・都市計画の中心商店街づくりについて
- ・2期目公約を何を担保に実行するか
- ・農業の公約は何を担保に実行するのか
- ・機能性食品低タンパク米の栽培について



商店街に活性化を

米価暴落、町として価格上乘せを

町長／概算金への上乗せ加算は考えていない



米価暴落で
思ったより
町財政にも影響が
出るのでは？

問 26年度概算金は前年比27%以上のマイナスとなり、例えとして、雫石のあきたこまちペットボトル1本で今でも水より安い56円程度が40円になってしまう。町として仮に農協さんと同じ額60kg当り200円を助成してくれれば40円が43円強になる計算だ。町の持ち出しは4,500万円くらいであり、コメ農家の苦境に手を差し伸べるべきではないか。(秋田県の東成瀬村は自治体独自の助成をすると聞いている。)

町長 町内産の米の販売収入の減少額は約5億7千万円になると計算しており、大変な危機的なものと意識している。ナラシ対策とナラシ円滑化対策等国の制度の普及により減額幅の縮小を図り、町としては各種資金の利子補給をする計画であり、直接の概算金への上乗せは考えていない。

意見 9月議会の私の一般質問への農業委員会会長が表明した、農業委員会の公選制と事務局体制の維持を訴えた意見も尊重して、町主催で農業危機突破、TPP粉砕の大会を開いてでも明確に内外に意思を表明すべきだ。

町道除排雪事業・ みんなが納得できる形で

問 今まで出来ないと言ってきたNPO法人への委託以外の業務形態を町直営に一部移行することへの質問での答弁に間違いと説明不足がある。公共サービス事業である除排雪事業を土木事業の元請けと下請け関係で良いという誤解が町とNPO法人両方にあるのでは。今の除排雪委託でもオペレーターに直接価格を表示して、その上でNPO法人としての運営費、必要経費とかお互い納得してお金のやり取りをすることで、いわゆるあつれきを無くする。これが本来の特定非営利法人としてのあり方ではないか。今までの議論の到達点として町が指導、提言することが出来ると答弁しているがどうか。

副町長 町としてもNPO法人にいろいろ提案して来た経緯がある。今後もNPOとも検討し、総価契約方式も含めて研究したい。



26年度一部直営となった除雪事業

■他にこんな質問もしました
・町議補選の広報について

あの質問は…その後どうなった



町議会で行われた質疑の中から 2 項目を選び、その提言が町政にどう反映されているのかを調査しました。



質 問

小学校適正配置検討委員会をすぐに設置し、統廃合を 1、2 年で実施するべき。
(平成 23 年 12 月議会)

処理状況

質 問

突然水路に水が来なくなったのはなぜか。冬季においても水路の水は確保すべきでないか。
(平成 23 年 9 月定例会)

処理状況

その後

- ①平成 24 年 1 月 30 日岩手県知事あてに、地域水ネットワーク再生事業採択申請書の提出。(雫石土地改良区)
- ②平成 24 年度予算で町が土地改良区へ事業費 2 分の 1 の 937 万 7 千円を補助金交付し、許可申請に必要な水質検査と環境に及ぼす影響等の調査を継続中。調査終了後許可申請の予定。(平成 27 年 3 月頃)

その後

- 平成 24 年度 雫石町小学校適正配置検討委員会を組織し、5 回開催。
- 平成 25 年度 雫石町小学校適正配置基本計画を策定し、小学校ごとに説明会を開催。
- 平成 26 年度 4～5 月 懇談会開催 (8 校)。
6～8 月 PTA 役員と意見交換会を開催。保護者へのアンケート調査を実施。
9 月末 地区懇談会開催
今後、各 PTA が、統合に向けた準備を進めたい旨の意思を示した時を合意形成と判断し「統合準備委員会」を設置予定。



議会改革のまとめ

雫石町議会基本条例、議員定数削減(20人から16人へ)などを決定

当町議会では、平成23年9月定例会において、町民の負託に十分こたえられる議会活動と議員活動を実現することを目的とした議員全員(議長を除く)をもって構成する雫石町議会改革特別委員会(坂下栄一委員長)を設置し、48項目に及ぶ調査、検討を重ねた結果「改革すべき」と決定したものが29項目となりました。

議会基本条例は既に施行しており、これらの改革事項は、既に実施されているものが大半ですが、議員定数削減については、今年7月に行なわれる町議会議員一般選挙から実施されることになります。

なお、議場内の映像配信(生中継、録画両方)については、早期に実現できるよう取り組み中です。

改革事項の主なものは以下のとおりです。

- ①傍聴者に会議資料を配布
- ②会議録検索システムを導入
- ③議案に対する各議員の賛否を公表
- ④各定例会後に検証会を実施
- ⑤町民と議会との懇談会を開催
- ⑥正副議長の立候補制を導入
- ⑦災害時における議員行動マニュアルを策定
- ⑧雫石町議会議員政治倫理規程を制定
- ⑨議員定数を4人削減する(平成27年7月の選挙から適用)

クローズアップアップ

改選後の新議員を紹介します。議席番号1、2番の2名が議員としての抱負などを語ります。



北海道に住む孫と(盛岡駅にて)

「一念発起 身を粉にして」

やまざき よしくに
山崎 芳邦 議員(69歳 小松行政区)

昨年10月の町議補選にて議席をいただきました。率直な思いは、議場、議員控室等の雰囲気馴染めず日々辛酸の連続でした。先輩諸氏の叱声・忠告を胸に、議会の場を介して、町民の潤いと安らぎのため研鑽して参りたいと思います。



平成24年度行政区野球優勝時の林行政区メンバーと
(後列左から4番目が横手議員)

「新議員として」

よこて としあき
横手 寿明 議員(45歳 林行政区)

昨年10月の町議補選で皆様から多大なご支援を頂き初当選してから、早3カ月が過ぎました。新人議員研修をはじめ、さまざまな研修会や会議、そして12月定例会と日々勉強の毎日を過ごしております。初心を忘れず、今後も雫石のために頑張ってまいります。

常任委員会●活動報告

調査実施日／
平成26年12月10日、11日

調査項目／
所管事務調査

総務

総務常任委員会(前田隆雄委員長)は、以下の所管事務調査を行いました。

1. 所管事務調査(12月10日、11日)
出納課、税務課、防災課、総務課、企画財政課、町民課から聞き取り調査を行いました。

【出納課】今後三カ月間の収支の見通しについて

【税務課】25年度と26年度(11月現在)の収納率、収納額について

未納者への督促状(赤封筒)の反響について

【防災課】今後の予定とポンプ車更新、防災ラジオについて

【総務課】国民体育大会視察についてや役場前排水側溝工事、身障者用スロープ工事などについて

【企画財政課】ホームページ全面改修、27年1月本格稼働、空家バンク、ふるさと納税などについて

【町民課】公共交通体系、社会保障・税番号制度、後期高齢者健康診査事業、乳幼児等医療費補助事業について

以上、それぞれ説明を受けました。
雫石町国民健康保険条例の一部改正についての事務調査を行いました。

閉会中の継続調査事項は次のとおりです。

1. 町交通体系のあり方について
2. 空き家、廃屋対策について
3. 定住促進について

調査実施日／
平成26年11月14日、12月10日

調査項目／
所管事務調査、陳情審査

教育民生

教育民生常任委員会(加藤真純委員長)は以下の所管事務調査を行いました。

1. 所管事務調査(11月14日)
雫石中学校スーパーエコスクール実証事業についてエコアトリウム図書館を中心とし、生徒が本に触れやすい環境づくりが大切であるということで再度事業計画に入れ、実施設計をすることの説明を受けました。

2. 所管事務調査、陳情審査
(12月10日)

①【学校教育課】

雫石中学校スーパーエコスクール実証事業について、エコアトリウム図書館の平面図と立面図を作成。生徒昇降口の改修も含めて2階職員室を利用し1階から階段と吹き抜けを造るとの説明を受けました。

②【福祉課】

人権擁護委員候補者2名について、現在の活動状況の説明を受けました。

③陳情第6号審査

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充に関する陳情は全員一致で採択としました。

閉会中の継続審査事項は、次のとおりです。

1. 小学校の適正配置について
・廃校後の利活用
2. 訪問診療の推進について
3. 高齢化対策について

調査実施日／
平成26年11月4日、26日、27日
12月10日、11日

調査項目／
所管事務調査、請願審査

産業建設

産業建設常任委員会(上野三四二委員長)は、以下の所管事務調査を行いました。

1. 所管事務調査(11月4日)
農林課、地域整備課から聞き取り
2. 所管事務調査(11月26日)
観光商工課、農林課から12月補正の説明

・鶯宿温泉予備源泉ポンプ整備補助について

・道の駅施設改修工事(増)について

3. 所管現地調査(11月27日)
・道の駅の厨房改修現地調査と聞き取り

・商店街街路灯LED電球への交換について

4. 請願審査・所管事務調査(12月10日)

・請願現地調査(谷地行政区地内通学路)

・請願第5号 危険な通学路に歩道新設の請願書

・請願第6号 米価安定対策等に関する請願

第5号、第6号とも全員一致で採択としました。

【農林課】平成26年度事業の状況および27年度事業について

【観光商工課】観光振興およびPRプロモーション、着地型旅行の成果について

5. 所管事務調査(12月11日)
【農業委員会】26年度主要事業の進捗状況について

【環境対策課】26年度主要事業の進捗状況について

【復興整備課】災害復興について

【上下水道課】26年度事業の進捗状況および27年度主要事業調査について

閉会中の継続審査事項は、次のとおりです。

1. 予定されている減反廃止に伴う雫石農業の現状と課題について
2. 6次産業化の育成について
3. 再生可能エネルギーについて



議会へのひとこと ——皆さんの声を聞きました



かねだ たけぞう
金田 竹蔵さん
(71歳・林行政区)



おだ のりお
小田 記央さん
(39歳・小松行政区)



たきさわ とうしち
滝沢 藤七さん
(59歳・滝沢行政区)

観光地の活性化で 豊かな町を

雫石町は、農業と観光の町として色々な施策を行い全国に発信してきましたが、年々観光客は減少していると聞いています。

その背景は、核家族化の進行と若い人の雇用にあると思います。今、非正規雇用が多く、日・祝日も仕事で家族と一緒に過ごす事も難しい時代です。このような社会状況で観光地を訪れる人は、高齢者が多く、公共交通を利用します。しかし、雫石は路線バスが廃止され、観光地へのアクセスが無い事も観光客減少の一因ではないかと思っています。観光資源が豊富な雫石町で、いつでも、誰でも利用できる交通システムの確立が望まれます。

今、スキー客も高齢者が多くなっていると聞きます。これからの観光地は、若い人は元より高齢者を対象にしたサービスを拡充し、一人でも多くのお客さんを迎え、地元で採れた農畜産物の消費拡大で元気な町となる事を願っています。

子どもたちの 将来のため

今年度、地元小学校のPTA会長になり、併せて町P連の会長もさせて頂くことになりました。行政等の様々な会合に参加する機会も多く、あらためて雫石町の素晴らしさに気づかせて頂きました。

雫石町は自然に恵まれ、農業・観光という資源があり、更には、そこに生まれ育つ子どもたちという輝かしい宝があります。しかしながら、少子化は進む一方であり、この子どもたちが郷土の素晴らしさを感じ、将来もこの地域で生活したいと思えるような、地域・環境づくりが必要であると思います。

そのためにも、それぞれの役割は違いますが、行政・議会と地域住民が一体となり、町づくりに取り組むことが肝心だと思います。

今まで、行政に対して無関心で人任的な自分でありましたが、雫石の住民として、より良い町づくりのために自分にできることを探し、積極的に参画していきたいと思っています。

最後に、雫石町行政の益々の発展と議会の皆さまのご活躍をご祈念申しあげます。

今こそ 「循環型雫石の農業」を

私が自然農法に取り組むきっかけは、農業散布の作業、それが一番嫌いな作業でした。どんなに防備してもその作業をすると体調が悪くなりました。

私達は本来、自然と調和し、自然の恩恵を受けながら生活しています。経済的な目的で美しい自然をどんどん破壊し、物質的満足を追求めてきた結果、現在の不安定な状況になっていると思います。

世界でも豊かな国のはずの日本は今、景気の低迷、フリーター、ニート、自殺者が3万人を越え、ラベル偽造、猟奇的で凶悪な殺人事件が相次ぎ、子供の虐待や肉親の殺人、犯罪の低年齢化が進み、いじめ問題、不登校等の数々の社会問題を抱え本当の豊かさは何か問われています。それは「心の豊かさ」だと思います。心身の健康があつてはじめて可能になると思っています。今こそ雫石の恵まれた環境を生かし、100年以上かけてつくられた景観を守りながらすべての人に安心・安全な農作物、農業・化学肥料を使わない農業へ転換する時だと思います。お金では買えないおいしい空気・土・水を汚染させないで、雫石を世界でたった一つの町にする一役として農業を続けたいと思います。

「いのち・健康・自然・環境」を優先する社会へ換えていきたいですね。

こ さかただひこ
在京雫石町友会 会員 小坂忠彦さん



集団就職列車内での決意が人生の原点

私は、御明神中学校を2クラス63名で昭和35年度に卒業しました。その頃の御明神の農業は馬から耕運機に代わる頃で鉄道も田沢湖線は橋場線と言って、雫石駅が終点で蒸気機関車が走っていました。小学生の頃、耳の治療に雫石駅まで歩いて行き盛岡まで通院したことがありますが、駅までとても遠かった事を記憶しています。

私たちの頃は高校に進学する者は数名で、多くは地元に残らず東京や関東方面に就職するのが普通で、私も親から地元の高校に進学しても良いと言われましたが、受かる自信がなく悩んでいました。そんなとき、先生から千葉県鴨川にある病院で1年間働いたら高校の学費も全額出してくれるし、既に何人か同じ中学校の先輩がいるから安心して働けると勧められ就職することにしました。3月の終わりに同級生と一緒に夜行の集団就職列車で雪の降る盛岡駅を母や姉に見送られて出発しました。その時の悲しみと感謝と決意の心は今でも鮮明に脳裏に刻まれており、その後の人生で壁に当たったり悩んだりしたときに、勇気を奮い立たせてくれました。

上野駅で都内の就職組と別れ、さらに電車に乗り、着いたのは夕方、周りは雫石と変な景色でした。病院での仕事は患者さんの食事作りで、朝が早く馴れるのが大変で何度辞めて帰ろうと思った事か。それでも上京時の決意で踏ん張り、5年間高校を卒業するまでお世話になりました。その間帰省での思い

出は、夏に1万円の中古オートバイで舗装されていない国道6号を、仙台・盛岡経由で2日かかりで帰った時に家に着くなり母親に怒られました。その時のヘルメットを今も捨てずに持っています。卒業後一緒に行った同級生と鴨川を離れ、東京に出て、自分は専門学校に同級生は料理の道へと進んだが、若くして東京で亡くなり残念な思いをしました。

その後、私は縁あって大学病院の調理室にお世話になり、40年近く勤務し定年を迎えました。定年後は雫石で生活しようと思いましたが、千葉の魅力も捨てがたく、今は近所に中学の恩師や先輩の居るいすみ市で田んぼに囲まれて、趣味や車での旅行を楽しみながら生活しています。また、町友会には同級生の中島幸男君の誘いもあり、ふるさとの仲間と会えるのを楽しみに参加しています。雫石の四季の美しさは故郷を離れてから強く感じています。特に春の小岩井農場、秋の滝ノ上溪谷、帰省すると必ず行く国見温泉、道の駅等。去年は地元の友人達を連れて、雫石を紹介しに帰省旅行をしました。

帰省するたびに同級生を集めてくれる人、集まってくれる人、親代わりの姉夫婦、実家を守っている人たちがおりとても感謝しております。元気な間は出来る限り帰省したいと思っており、今年もお盆に帰省してきました。写真は趣味のカービングで作った木彫りの行燈と野鳥です。



小坂忠彦さんプロフィール

昭和20年生まれ。御明神天瀬行政区出身。趣味：カービング（彫刻）、旅行（車）。御明神中学校一亀田総合病院・千葉県立長狭高校一東邦大学医療センター大森病院（千葉県いすみ市在住）

雫石町へようこそ

お嫁さん

お婿さん

ご縁があり、町外から迎えられた
「お嫁さん」



左奥から 夫の孝幸さん(42歳)、嘉恵さん、
長女の明莉ちゃん(6歳)、長男の直輝くん(小3)

すぎさわ よしえ
杉澤 嘉恵さん(41歳 盛岡市向中野出身)
(旧姓：菅野、矢櫃行政区在住)

Q- お二人の馴れ初めは？

- 共通の知人の結婚を祝う会で出会ったのが、きっかけです。
長男の就学を機に、平成24年に雫石町に来ました。

Q- 雫石町に暮らしてみていかがですか？

- 自然が豊かな町。子どもたちは、夏は虫探し、冬は雪遊びが思いきり出来て楽しそうです。(カメムシの多さには、びっくりしました!!) 小児科の数は少ないですが、緊急時には、休日・昼夜かかわらず診てくださる事に驚いたとともに、とても有り難く感じています。

Q- 町へ望むことは？

- 若い人達が、雫石町にずっと居たくなるような、魅力ある町づくりを期待します。

議会の主な動き 11月～1月

- | | |
|---|--|
| <p>11月4日 豪雨災害対策特別委員会／
産業建設常任委員会／
議員全員協議会</p> <p>5日 群馬県玉村町議会「広報視察」
来庁
議会広報編集特別委員会</p> <p>6日 議会運営委員会</p> <p>7日 第2回盛岡広域8市町議会正
副議長懇談会</p> <p>10日 議員全員協議会</p> <p>13日 宮城県大衡村議会「広報視察」
来庁</p> <p>14日 政務調査会／議員全員協議会
／教育民生常任委員会</p> <p>19日 議会運営委員会</p> <p>25日 臨時議会</p> <p>27日 町勢功労表彰・祝賀会
議員全員協議会／
産業建設常任委員会</p> | <p>12月2日 西和賀町議会との合同研修会
(西和賀町)</p> <p>3日 議員全員協議会</p> <p>5日 12月定例会開会(12日まで)</p> <p>10日 各常任委員会</p> <p>11日 各常任委員会／全体会</p> <p>15日 政務調査会</p> <p>1月4日 雫石町交通指導隊初点検式・
消防出初式</p> <p>5日 雫石町新年交賀会</p> <p>8日 議会広報編集特別委員会</p> <p>9日 豪雨災害対策特別委員会／
滝沢市議会との合同研修会
(滝沢市)</p> <p>11日 雫石町成人式</p> <p>15日 政務調査会／全員協議会／
議会広報編集特別委員会</p> <p>20日 総務常任委員会</p> |
|---|--|

情報公開

●議長交際費執行状況

【議長交際費とは】

議長等が議会を代表し、外部との交渉、
情報収集、町政協力者への謝意を表すため
に係る経費で、会費や香典などです。

【議長交際費内訳(10月～12月)】

月	葬祭費	お祝い、会費
10月	0件 ー円	2件 9,000円
11月	0件 ー円	6件 29,000円
12月	0件 ー円	5件 25,000円
小計	0件 ー円	13件 63,000円

今月の表紙

▶指導者の澤口
さん
(八丁野行政区)



雫石町剣道スポーツ少年団
(代表：澤口幸彦さん)

厳寒の明小体育館で今年の初稽古。1月下旬の大会に向けて、小3から中2までの13人が裸足で練習に励んでいた。練習場所の確保に苦勞している、剣道場の整備を心待ちにしているとのこと。団員は随時募集中。お問い合わせは町営体育館内町体育協会(☎692-1644)まで。

■編集デスク

議員になって早3年半がたちました。研修等でいろいろと勉強させていただき、様々な問題も自分たちなりに検討し進んで参りました。

まだまだ精進の日々であります。広報編集と議員活動にまい進して参りたいと思っております。

(編集委員 幅 秀哉)